



日本共産党市会議員 かたやなぎ 進

片柳すすむ 市政報告

発行 日本共産党 川崎市議会議員団
川崎区宮本町1番地 第2市庁舎7階
TEL 200-3360 FAX 245-4140
その他の連絡先 TEL 246-6823

多摩川・鶴見川―「想定しうる最大規模の降雨」に備え ハザードマップの全戸配布で 避難経路認知を

今月号の内容

▼1面

- ①洪水ハザードマップ全戸配布を
- ②住民要望実現・ワイド版
- ピバース日進町地域開放/小田1丁目
- 交差点安全対策/八丁驛踏切安全対策

▼2面

- ①市民の声/小田栄～追分 街路樹剪定を
- ②文教委員会/少人数学級実現・教職員の勤務時間の適正管理を
- ③一般質問―「LGBT」施策
- ④諸団体懇談 ⑤北海道視察
- ⑥コラム/核兵器禁止条約



川崎区浸水想定区域(多摩川水系)図 川崎市HPより

一般質問

先に行われた川崎市議会第2回定例会(6月議会)で、片柳市議は一般質問に立ち「洪水ハザードマップの全戸配布などの洪水対策」「性自認・性的志向などいわゆる『LGBT』施策」について質問しました。その要旨をご報告いたします。

「最大規模の降雨」への備えを ハザードマップ全戸配布で

2年前の鬼怒川の大雨による堤防決壊を踏まえ、国が発表した「想定しうる最大規模の降雨による洪水浸水想定区域」に合わせて川崎市も対策をすることになりました。しかし川崎市は「ハザード

マップは全戸に配布せず」「市の説明会は川崎区3カ所、幸区2カ所。あとは依頼があれば出前講座を行う」という対応でした。

洪水ハザードマップの認知係数・理解度		
	全戸配布なし	町内会等を通じて全戸配布
「認知係数」 ハザードマップを「見たことがある」世帯	33.4%	51.7%
「理解度」 避難経路の伝達方法や避難場所を知っているか	52.7%	70.1%

全戸配布で「認知係数」「理解度」が約20%アップ

私は、国の関係機関が発表した調査結果で「ハザードマップを全戸配布することで、避難所や避難経路の認知率・理解度が20%近くも上がる(上図)」「住民同士の避難場所や避難経路が共通するため、小学校区など小規模な単位で説明会を行うことが効果的」という内容を示し、全戸配布と説明会の開催を求めました。

質問のあと九州北部豪雨災害をはじめ各地で過去に経験したことのない規模の大雨被害が起こっています。「想定しうる最大規模の降雨」に備えることが重要です。大規模開発ではなく、福祉・防災など人の命が最優先される川崎市にしていくために頑張ります。



要望実現ワイド版 【ピバース日進町の地域開放】

住宅供給公社「ピバース日進町」には地域開放している部屋があり、従来は管理人室に鍵がありました。管理会社の変更を機に、利用者が京急川崎駅近くの住宅供給公社まで鍵の受け取り・返却に行かなければならないようになってしまいました。

「日進町から川崎駅前までは遠くて不便。ピバースの住民代表に鍵を預けるなどの対応はできないか」と相談を受け、市役所に住民の要望を伝えました。その後、管理会社が鍵を開ける方式に変更されました。

【小田1丁目横断歩道の安全対策】

「小田1丁目交差点の歩道に車止めポールがあり、自転車が信号待ちの歩行者とポールを避けるため、車道側に大きくはみ出して危ない」「子どもを乗せている自転車もあり心配」と市民から要望を受けました。

現地を確認したときは、5分程の間にも自転車次々と車道側に避けて通って行きました。結果としてポールが一本撤去されました(右下写真参照)。住民の方の「地域の危険な場所



ポールがあったときの自転車の進路



反射する素材に変更された八丁驛駅前踏切非常ボタン

【八丁驛、踏切非常ボタンを反射する素材に変更】

本紙23号(5月号)で、八丁驛踏切の非常ボタンについて「現在の非常ボタンは、市民から『目立たずわかりにくい』との声も出されており、赤や黄色など目立つ色に変更するなどの対応が必要です」と改善を求めていました。

京急電鉄は5月末に、看板の文字を赤色に変え白地部分を反射するようにデザインを変更、ボタンの位置を矢印で示す看板も順次設置することです。



大島上町在住 佐藤進さん

小田栄く追分の街路樹などの剪定を

追分から小田栄の間の街路樹が繁っています。車で大通りから路地に入りやするとき、低い生垣状の街路樹が延び放題のために、自転車道を走っている自転車ごとくも見えにくく、突然飛び出してくるように感じます。何度か危険を

感じたこともあります。 渡田東町・小田栄交差点 付近の方から



も、「街路樹の高い木が生い茂っていて、落ち葉も多く大変」「役所をお願いしてやっと切ってくれたらと思ったら、交差点付近の狭い範囲だけ。もっと通り全体の剪定をするようにできないのでしょうか」との声を聞いています。 交通の安全の妨げになっているので、できるだけ早く剪定などの対応をしてほしいと思います。

「LGBT」性自認・性的志向に関する施策で一般質問



市議団は7月9日「LGBT」学習会を開催

片柳市議は6月23日に「LGBT」施策について一般質問。大阪市の3区共同制作の教員向けパンフから「小学4年のとき『オカマと呼ばれることが嫌だ』という意見を学級会で議論し、反応が変わった。感謝している」(49歳・ゲイ)など卒業生のLGBT当事者の声を紹介。

その上で、川崎市の相談窓口を「性同一性障害」に限らず、性自認や性的志向にかかわる相談へと対象拡大を求めました。特に思春期から青年期の当事者が自己肯定感を育む上でも、当事者のコミュニケーションスペースをつくるべきと提案。健康福祉局長は「性に対する違和感や不安がある方など幅広い方に対応している」と、市民文化局長は「居場所となる場も必要だと認識している」と答えました。

片柳市議はさらに、この間の視察で大阪市淀川区が「『相談してくれたら対応する』のではなく、LGBTの方が相談しやすくするのが行政の役目だ」として職員研修に取組んでいること、文京区が

全教職員に向けたマニュアルをつくり研修を行っていること、岡山市も全教員にパンフレットを配布し研修をはじめたことを述べ、川崎市でも全職員・全教員を対象に研修を行うことを要望しました。

団体と懇談ご意見を伺いました

来年度の予算に市民の声や実態を反映させるため、さまざまな団体の皆さんと懇談をさせていただきました。



助産師会のみなさんと懇談

私は、県弁護士会、港湾労働者、県行政書士会、公害病患者と家族の会、一般廃棄物協議会、合同法律事務所・北合同法律事務所、市助産師会、市精神障害者地域生活推進連合会の皆さんから貴重なご意見を伺いました。

さらに学んで深く皆さんの要望をつかんで反映できるよう、力を尽くします。

給食センター・障がい者グループホーム―札幌・帯広・伊達市視察

7月3～5日、札幌市のパートナーシップ制度と雇用対策、帯広市の中学校給食センター、伊達市の障がい者グループホームなどの視察を行いました。

核兵器禁止条約

7月7日、国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。「核兵器をなくす」ということは私が政治に関わった初心の一つです。学生・高校生たちと「ヒロシマ・ナガサキツアー」で毎年、被爆者の話を聞きまし



No. 26 片柳すすむ 日進月歩

「いつも核兵器の話をしていくが、戦争の恐ろしさも話したい」との言葉が思い出されます。Kさんは核兵器禁止条約の成立をみることもなく亡くなりました。どれだけ無念だったでしょうか。日本政府は「条約に署名

することはない」と言い放ちました。条約を力に、核兵器を北朝鮮に廃棄させ、米・ロなどにもなくすよう求めていく、本来なら日本こそ、その仕事をすべきです。被爆者の思いを我がものとして、自治体の草の根から実現を迫っていきます。



文教委員会 少人数学級、就学援助の充実 教員の勤務時間の適正管理を

7月20日の文教委員会では、少人数学級や奨学金・就学援助の充実などを求める2つの請願、「教職員の勤務時間の適正な管理を」という趣旨の請願と陳情を審査しました。

【少人数学級・お金の心配なく学べる環境を】

就学援助制度について「新入学児童生徒学用品費をほぼ倍に増額した」との報告を受けて、「増額は重要。他の自治体で始まっている『入学前の支給』に踏み出すべき」と求めました。

全市で教員70人程度の増員で可能となる少人数学級の拡充にも踏み出すべきです。

【教員の勤務時間の適正な管理を】

川崎市の教員の勤務時間は「手書きの出勤記録簿」で掌握されています。

文科省は今年4月「小学校の3割、中学校の6割が月80時間以上の残業」という調査結果を発表しましたが、川崎市の調査では、その数十分の一という結果に。片柳市議は厚労省・文科省が求めるように「客観的な記録」を原則とすべき、と強く求めました。教育次長は「今年度中にICカードを利用できるように進めていく」と答えました。